

【現地報告】毛沢東からマルクスへ

中国左翼の現在地

20代・上海在住
李篤勝

経済、人口ともに世界2位の規模を誇る中国。目まぐるしいスピードで進む社会の中で、青年たちは何を思い生きているのか。マルクス主義の立ち位置は。日本の新左翼運動を研究し、弊紙と交流のある李さんに寄稿いただいた。(編集部)

を生み出した。そして、1992年から2008年にかけて、中国の資本主義は急成長期へと入った。

しかし2008年以降、国際的には、中国は他の帝国主義諸国と熾烈な競争を繰り広げており、西側諸国は中国資本の発展

移動している。貧富格差は急速に拡大し、社会的対立は激化している。

その時、資本家と労働者の間に、若い知識人で構成されるホワイトカラー集団が形成された。

彼らはブルーカラー労働者より良い待遇を得ることができ、それは資本主義から与えられたものと見なされている。それゆえ、資本主義の発展にも喝采を送った。

しかし2008年以降、国内では、中国は他の帝国主義諸国と熾烈な競争を繰り広げており、西側諸国は中国資本の発展

を抑制し始めた。中国国内では、労働者が労働争議によって賃上げを実現したが、資本家にとって利益が減少した。

資本主義発展のジレンマに直面する中国政府は、不動産部門を通じて経済成長を維持し始めた。住宅価格の高騰が、ホワイトカラーの生活環境を悪化させていった。

2020年のコロナ大流行も、ホワイトカラー労働者を大量失業にさらした。若者たちは、新自由主義がより良い生活環境をもたらさないことに、ようやく気づいた。

SNSで広がる

そこで、学校で共産主義教育を受けてきた知識人たちは、マルクス主義の観点から中国社会の現状を分析し始めた。中国での「資本主義を見直す」という政治的トレンドを牽引しているのは、この「Z世代」(1990年代後半以降に生まれた世代)の知識人である。

中国では政治組織を結成することができないため、若者たちはインターネットを拠点とするしか

ない。SNSにはマルクス主義、レーニン主義、毛沢東思想を研究するさまざまなグループが形成されている。

SNSで社会現状を批判する発言が原因でアカウントが凍結された人もいるし、警察の調査を受けた人さえいる。追跡を避けるために、中国以外のSNS(Xやテレグラム)に目を向けたグループもある。こうなったら、マルクス主義が若者の間で流行するのはもう止められない。

この傾向は現在、次のような特徴を持っている。

(1)、マルクス主義者が労働者に占める割合は非常に小さいが、その絶対数は決して少なくなく、増加の一途をたどっている。(2)、これらのマルクス主義者は、主に若いホワイトカラー労働者と学生である。(3)、多くのマルクス主義者は、毛沢東を通してマルクス主義を知った。毛沢東の著作を自発的に学ぶことによって、多くの人々の考え方が変化した。そのため、彼らの多くは毛派であり、他の思想(トロツキズムやアナキズム)の影響力はより低かった。

21世紀初頭の中国では、若者の政治的スタンスは概して新自由主義を支持していた。彼らは、「米、英、日、韓などの『自由と民主の国』は人類で最も進んだ文明である。『共産主義中国』は後進的な文明である。したがって中国も自由主義を全面的(経済面だけでなく、政治面でも)に受け入れなければならない、さもないければ『文明から見捨てられる』と考えていた。

しかし2018年以降、中国の若者は徐々にマルクス主義に回帰し始めている。彼らは資本主義を崇拜することをやめて、代わりに強く批判し始めた。

中国資本主義復活の歴史

その原因を分析するならば、まず経済的土台に目を向ける必要がある。1978年以降、中国は資本主義改革に着手し、新興ブルジョワ

変化していく価値観

中国の検索エンジン百度(バイドウ)の統計によると、2020年には、2015年の4倍以上の人々が「毛沢東著作選」を検索している。その検索人口の75%以上が29歳以下である。今の中国では、左翼であろうとなかろうと、若者の左傾化を否定はできない。

もちろん、すべての若者がマルクス主義者というわけではない。実際、ほとんどの学生は「階級闘争」よりも「自由」「平等」の価値を重視している。SNSでは、学校(主に高校と大学)の管理主義教育への批判をよく見かける。その上、明言できないが、かなりの数の学生が政府による表現の自由の抑圧に不満を抱いている。政府を信用しなくなった学生も多い。

しかし、彼らはもはや資本主義が自由と平等をもたらしてくれるとは信じていない。権利も自由も自分たちの闘争を通じて獲得されなければならない。また、この自由のために戦うとき、毛沢東の有名なセリフ「人民に語らせよ」(讓人講話)もしばしば引用される。彼らにも、マルクス主義の要素が含まれていることがほとんどだ。マルクス主義者はまだ

ブルーカラーの潜在能力

要するに、中国では今、

若いホワイトカラー労働者や学生が全体として左傾化しており、その中にはマルクス主義者もいる。こうした駆け出しの「再造された」マルクス主義者たちは、政府宣伝の曲解された曖昧なマルクス主義に対し、自身の実践的な闘うマルクス主義で対抗している。

しかし、中国ではホワイトカラーのほかに、膨大な数のブルーカラー労働者がいる。彼らは人数が多く、最も危険で、低賃金で、過酷な仕事に従事している。彼らは大半の時間を仕事に費やし、政治理論を読んだり考え

たりする時間はないし、政治にもあまり関心がなく、だが生活が維持できなくなると、自発的にストライキを起こす。もし彼らがマルクス主義を理解し始めれば、社会全体を変えるだけのエネルギーが生まれるだろう。大きなリスクがあるにもかかわらず、ブルーカ

李篤勝

中国内陸部の山西省出身。2012年中学在学中、中国共産主義青年団へ加入。2017年同済大学入学。2021年卒業・就職。上海の新エネルギー開発産業系会社に入社。国際共産主義・左翼の研究者。日本新左翼の歴史に非常に興味を持っている。

